

《長崎新聞 平成26年11月24日朝刊より転載》

【質問】C型肝炎治療の助成対象が追加されたそうですね。詳しく教えてください。

(61歳、男性)

C型肝炎治療の助成

【回答】B型・C型肝炎の治療費は高額になるため、2008年度からインターフェロン治療に対して国は医療費助成を行っています。

B型・C型肝炎治療の進歩は目覚ましく、助成対象とされた治療法以外に新たな治療法が開発されているため、運用の変更を重ねてきました。そして、今年9月には、C型肝炎に対するインターフェロンを使わな



は強い副作用が出たり、最長42週間毎週の通院が必要など、金銭面の助成があっても途中で治療中止を

内服薬の抗ウイルス薬追加

いインターフェロンフリー治療に対する運用が追加されたのです。

C型肝炎の治療は従来、インターフェロン、またはペグインターフェロンという注射薬に加えて、抗ウイルス薬を服用する治療法が用いられてきました。しかし、インターフェロン

余儀なくされる場合があります。

一方、今回のインターフェロンフリー治療は注射薬を用いずに、内服薬の抗ウイルス薬である「ダクラスビル」を1日1回、「アスナプレビル」を1日2回、毎日24週間服用するという方法です。C型慢性肝炎、

代償期肝硬変の患者で、肝がん合併のない方が対象です。

過去にインターフェロン、ペグインターフェロン治療で無効だったり、中止したりした患者でも受けることができます。ただ、C型肝炎の種類の違いで効果が異なるといわれて

います。治療の適応や助成の申請方法、助成内容についてはかかりつけ医あるいは肝臓専門医にご相談ください。

肝臓は「沈黙の臓器」と呼ばれており、肝炎に罹患（りかん）してもすぐには症状が出ません。「体がだるい」といった症状が出る

早期発見向け 一度検査を

ころには、重度の肝障害と なっていることもありま す。特にB型・C型肝炎は血液を介してウイルスに感染するため、いつ感染したか不明なことが多く、知らないうちに慢性肝炎から肝硬変となり肝がんを併発してしまつこともあります。

かつて治療法がなかった B型・C型肝炎も医療の進歩で治るようになりまし た。国は将来の肝硬変、肝がんの発生を予防するとともに、肝炎ウイルス感染の防止に力を入れています。県や市町村は肝炎ウイルスの無料検査を行つて早期発見に努めています。まだ検査を受けたことがない人は、近くの保健所やかかりつけ医に一度相談してみてください。

(県医師会)

質問をどうぞ

この欄では県医師会が医療制度全般の質問にお答えします。質問希望の方は知りたい内容を分かりやすくまとめ、〒852-8601、長崎市茂里町3の1、長崎新聞社生活文化部「医療制度Q&A」係までお送りください。不明な点をお聞きする場合がありますので住所、氏名、年齢、性別、電話番号を明記してください。なお、直接本人への回答はいたしません。